

「根拠を明確にして意見を書こう」～意見文を書く～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

他者とのかかわる力

単元について

○単元観

本単元で目指す言語能力は、中学校学習指導要領「B 書くこと」の「ア 社会生活の中なら課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。」「イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。」「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」「エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。」これらの言語能力を育成するために、根拠を明らかにして意見文を書くという学習を行う。意見文は自分の考えを理由や根拠に基づいてわかりやすく筋道を立てて伝え、読み手に納得してもらい、行動を起こさせることを期待して書かれるものである。そのためには、①課題を見つける力、②見つけた課題を解決しようとする力、③解決するための論理的思考力とそれを書き表す力が求められる。「根拠を明確にして意見を書こう―意見文を書く」は、自分の立場を決め、理由や根拠を明らかにし、最も自分の立場に合ったより強い理由や根拠を絞り込み、予想される反論とそれに対する考えをどのような構成で表現したらよいかを考え、実際に文章にまとめる単元である。この単元で、自分の考えや意見をしっかり持ち、根拠を明確にして説得力がある文章を書く力を身に付けさせたい。

○生徒観

2年生は、1年生で学習した「流氷と私たちの暮らし」では、最終課題として地球の環境問題について意見文を書いたり、定期テストでは、「書く」の問題で、与えられたテーマについて自分の意見を根拠を明らかにして書く(150～200字程度)ということをしてきた。また、ディスカッションやビブリオバトル、スピーチ大会など国語の授業以外の場面でもさまざまな言語活動をしてきた。その結果、自分の考えを伝えたり、書いたりすることへの抵抗は少ない。また、日々の学活などでも意見交流を日常的におこなっているため、他者の意見を取り入れ、自分の考えを広げることでもできるようになっている。

しかし、呼びかけなど書き出しの工夫や自分の立場を最初に述べることはできているが、根拠をあげる順番を考えたり、反論を予想したりそれに対する自分の反論を考えたりすることはできておらず、効果的な文章の構成まで考えるところには至っていない。

本校で実施した、前年度の福山市の第2学年国語調査問題をしたところ、「書くこと」の領域、五の3「根拠に基づいた考えの記述」では、正答が56%、指定された条件(内容にかかわるもの)が片方しか満たされていないものが19%、2段落構成にもかかわらず2段落になっていないものが14%、指定された字数に過不足があったものが8%、無回答が6%だった。この結果から1つ目は問題文や条件を最後まで正確に読み取ることができていないという「書く」ための前段の「読む」という力がついていないこと、2つ目は与えられた資料から自分の主張を読み手に納得させる適切な根拠を選び、効果的に文章の構成を考える力が不足していることが考えられる。

普段から根拠をもとに意見を述べる指導はしているが、十分とは言えず、どういものが適切な根拠であるのか、どういう構成をすればより説得力のある文章になるか、今回の学習を通して考えさせていきたい。

○指導観

指導にあたっては、モデルとなるような文章を2つ提示し、両者を比較させることによって読み手にとって適切な根拠や効果的な構成は何かを考えさせる。そこから読み手が納得するような文章を書くためのポイント「相手の心を動かす説得力のある文章を書く極意」を考えまとめさせる。それをもとに自分の文章を推敲し説得力のある意見文を書かせたいと考えている。

学習に当たっては、4人の学習グループを作って、「書く極意」をもとに根拠や構成について話し合わせたり、出来上がったお互いの意見文を読み合い質問や助言をし合う。友達からの意見を取り入れながら自分の意見文をよりよいものに推敲していくことを活動させたい。

また、意見文のテーマについては、自分たちの学校生活に大きく関わり生徒がイメージしやすいテーマを考えた。福山市内でも今年から新たに2校増えた学校給食について「学校の昼食は給食がいいか、弁当がいいか」に決めた。

学校給食については、平成26年度調べでは全国81.4%の中学校が実施しており、食育の重要性や異物混入事件、アレルギー問題などたびたび話題に上がるテーマである。また、保護者の苦労や思いなど様々な切り口が考えられるテーマである。自分がどういう立場に立つか、そしてどういう根拠を持ってきて、それを自分の主張に結び付けていくか、多様な意見が出てくると考える。

単元 の 目 標

- (1) 課題について、意見や根拠を明確にしなが、主体的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 多様な方法で情報を集め、伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫することができる。 (書く ア・イ)
- (3) 自分の意見と根拠を明確にして意見文を書き、書いた分を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、推敲することができる。 (書く ウ・エ)
- (4) 文の中の成分の順序や照応、文の構成などについて考えることができる。 (伝国 イ)

単元 の 評 価 規 準

ア 関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 伝統的言語文化と国語特質に関する事項
①課題に対する意見を、より明確にしたり深めたりするために、根拠となる情報を積極的に集めている。	①「書く極意」をもとに文章の構成を工夫している。 ②意見を支える根拠を具体的に示したり、反論を予想しそれに対する考えを示したりしながら意見文をまとめている。	①主語・述語の関係、接続詞の使い方、副詞の呼応などに注意して文章を書いている。

資 質 ・ 能 力 と 評 価 の 観 点 と の か か わ り

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点		
			関	書	伝
知識					
スキル	思考力・ 判断力・ 表現力	思 ①学習したことを使って、自分の考えをまとめる力 ②根拠をもとに、正しい判断をする力 ③よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 ④自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力	○	○	○
意欲 態度	主体的に学ぶ力	主 ①自ら考え、判断し、行動する力			
価値観 倫理観	他者とのかかわる力	他 ①他者と協力（協働）して、課題を解決しようとする力 ②他者との関わりを通して自分の考えを深めたり広げたりする力		○	
	社会貢献力	社 ①地域のよりよい社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力			
	自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力			

I 学習内容とII学習活動, III単元として育てたい資質・能力のつながり

I 根拠を明確にして意見文を書く学習の中で, II 書いた意見文を学習班でお互いに批評しながら推敲し, より説得力のある意見文にしていくことで, III 自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力を育てる。

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは、福山市の市議会議員です。市内の中学校の昼食を「給食にするか。弁当にするか。」で市議会で議論しています。給食派と弁当派に分かれて提案（意見文）をしてください。	A 友達の意見文について「書く極意」をもとに適切に評価し、交流で学習したことや友達の文章の良いところを積極的に今後の自分の文章に活かそうとしている。
	B 友達の意見文について「書く極意」をもとに良い点や改善点について自分で考えメモすることができている。
	C 友達の意見文の発表や意見交流を聞いて、メモすることができている。

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				
			関	書	伝	評価規準 (評価方法)	
1	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> これからの活動の見通しを持つ。 「意見文」とは何かを確認する。 A・Bの文章を比較し、説得力のあるのはどちらか考える。 選んだ文章がなぜ説得力があるか考える。 			○	ウ-① (発言内容)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法) ◇A Bの文章を比較し説得力がある理由を考えている。 【思-①】
2	整理・分析 情報の収集・	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習した意見文や先輩の意見文を読み合い「人の心を動かす説得力のある意見文を書く極意」を学習グループでまとめる。 	○			ア-① (ワークシート)	◇協力して説得力のある文章を書くための極意を考えている【他-①】
3		<ul style="list-style-type: none"> 学習グループごとに発表し、「書く極意」をまとめる。 意見文を書くときに注意しなければならないことを確認する。 			○	イ-① (発言内容)	◆説得力のある意見文を書くために必要なことが理解できている。 【思-①】 (ワークシート・発表)
4	まとめ・創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> 「書く極意」をもとに「学校の昼食は給食がいいか、弁当がいいか」で1次意見文を書く。 			○	イ-① (原稿用紙)	◆自分の立場や意見が伝わるように根拠を明らかにして書こうとしている。 【思-④】 (原稿用紙)
5		<ul style="list-style-type: none"> 「書く極意」をもとにして互いの根拠や構成を読み合い、適切な表現になるように推敲する。 班代表1名を選びクラスで発表し意見交流する。(本 時) 			○	○	イ-②, (原稿用紙) ウ-① (原稿用紙)
6	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 推敲したものを2次意見文として清書する。 お互いの原稿を評価し合い、自分の表現を客観的に見つめるとともに効果的な表現にするためにどうすればいいか理解する。 	○	○		イ-② (発表)	◆友達の意見文について適切に評価しながら良い点や改善点を発表している【他-②】 (発表)

本時の学習

(1) 本時の目標

「書く極意」をもとにして、互いの1次意見文を読み合い、友達のアドバイスを参考にしながら、より説得力のある意見文に推敲することができる。

(2) 準備物

原稿用紙 付せん紙 掲示用資料 ワークシート

(3) 学習展開 (5限目/6)

まとめ・創造・表現

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (5分)	1 前時の学習の取組を振り返り、本時の学習目標と学習内容を確認する。	○前時の学習を振り返り、「『書く極意』をもとにお互いの1次意見文を読み合い、より説得力のあるものに推敲する」を確認する。	
【本時のめあて】 「書く極意」をもとにアドバイスし合ってより説得力のある意見文を作ることができる			
展開 (40分)	2 4人の学習班で「書く極意」をもとにそれぞれの意見文を読み合い、アドバイスや質問をし合う。 3 書いてもらった付せんを参考にしながら自分の意見文を推敲する。 (J)…じっくり考える) (K)…くり返し挑戦する) 4 各学習班でそれぞれ代表1名を決め、全体の場で発表する。 (H)…はっきり表現する)	○改善点は青い付せん、良い点はピンクの付せんを書いてお互いの意見文に貼るように指示する。その際、付せんの内容について説明、質問をお互いにしっかりさせるようにする。 ○アドバイスをもとに、原稿用紙の横の余白に赤ペンで修正させる。 ○意見文の工夫されている点や改善点についてしっかりメモを取りながら聞くようにさせる。	イー② ◇友達の見文について「書く極意」をもとに良い点や改善点について自分で考えメモすることができる。 【思ー③】 (付せん紙・机間指導) ウー① ◇友達のアドバイスをもとに適切に推敲し、より説得力のある文章にしている。 【他ー②】 (原稿用紙)
まとめ (5分)	5 今日の授業の自己評価やその理由感想をワークシートに書く。 6 次時の予告をする。	○今日の目標が達成できたか、しっかり振り返りさせる。	